

【基本方針】

団体生活の枠にとらわれず、家庭生活により近い施設生活の提供を行う

【年間目標】

- ① 言葉遣いを徹底する
- ② レクリエーションを充実させ、楽しい施設生活を送る
- ③ 三大介護（入浴・食事・排泄）を見直し、質の向上をはかる
- ④ ご家族とより良い関係を保ち続ける

【実践報告】

① 言葉遣いを徹底する

- ・人生の先輩であるという敬う気持ちを持って接することを理解はしているが、余裕がない時や危険を伴う場合等は、大きな声で行動を制止するような言葉が出るがあった為、自己評価を上半期、下半期で行った
- ・良かった対応、悪かった対応について、全職員の聞き取りをおこない、双方の内容紹介を行い、自分たちの行動・言葉遣いについて意識づけを行った
- ・言葉遣いや対応について気になる職員については、効果的な指導ができるよう、管理職で話し合い実行した
- ・家族会時、ご家族に職員の言葉遣いについての確認は行ったが、特に目立った酷評等なく、この状態を維持できるよう、それぞれが常に意識できるように訓練する

② レクリエーションを充実させ、楽しい施設生活を送る

＜外出について＞

- ・全員ができた外出は、満開の桜の花を見て頂いたことだけになってしまった為、外の空気を感じたり、買い物に行く機会も企画し、限られた方の外出にならないよう、もっと多くの方の外出支援ができるよう計画していく
- ・ご家族と一緒に施設周辺の散歩、一緒に買い物する事はできたが、より多くの方の個別支援ができるように検討していき、引き続きスロープの設置等、環境整備を行う

＜日々のレクリエーションについて＞

- ・各フロアではDVDを見ながらの音楽体操が定期開催できるようになり、利用者に対する効果を職員が感じる事ができた結果、活動的な時間を日常的に確保する事に繋がり、個別で対応できる脳トレや時代劇等のビデオ鑑賞等楽しめる機会を持つ事ができた

- ・四季の行事は継続することができたが、限られたものになってしまっている為、その他、デイサービスのカラオケルームの利用や他部署のイベントへの参加、ボランティアを活用する等の取り組みができなかったため、再検討し、ご家族も楽しめるように行事に対する広報も取り組んでいく

③ 三大介護（入浴・食事・排泄）を見直し、質の向上をはかる

- ・職員が個々に自己評価した結果、できていないことも一部あったため、次年度は早い時期に皆がふるさとで取り決められた三大介護ができるようになるとともにケース検討会議等で決められたケア、ケアプランに沿った介護内容を把握し、利用者に対し統一した介護ができるようにしていく
- ・一定時間確保できた個別面談にはならなかったため、計画立てでの面談を行えるようにする
- ・介護技術は各自、自己評価を行ったが、不足箇所も確認された為、今後も不足する技術がある場合は、効果的に技術の習得ができるように勉強会を行っていく

④ ご家族とより良い関係を保ち続ける

- ・面会時は職員より声掛けをして様子を伝えることができている為、担当の職員が勤務の時は必ず直接対応もっと積極的にできるようになる
- ・日頃より電話で細かな相談を行っており、知りえなかったご利用者のエピソード等を聞くことができ、職員間で共有している
- ・家族会は春に開催し、主任、留学生の紹介を行い、外国人労働者に対する理解を得る事ができた
- ・常にご家族の立場に立ち行動しているつもりではあるが、まだまだできていない部分があり、20周年を迎える次年度、きめ細やかなより良いサービスが提供できるように職員一同おもてなしの気持ちしっかり心に根付かせていく

【総括】

平成 31 年度は長期入所単独では 98.1%、短期入所と合わせると 100.6%の稼働の維持ができたが、入退居が 24 名と例年の倍程の入れ替わりがあった

ターミナル対応者は 18 名にて 7 割以上の方を施設内でお見送りすることができた。ターミナル対応した中の 1 名は、入院していた病院の方より、病院の倫理委員会で事例報告したいとお話があった為、ご利用者を想う職員の尊い気持ちの結果と感じている

ふるさとで過ごせて良かったと想って頂けるサービスの提供を今後も行っていきたい

【神戸市事故報告】 2件

(令和元年6月30日 13時30分発生)

パット交換時、確認するために左側臥位にした際に、脚から「パキ」と鈍い音が聞こえた為、左膝辺りを確認すると腫れており、整形外科受診すると左大腿部幹部骨折（ねじれたことによりおこる骨折）と診断される。シーネベルト等装具を作成し、施設内で安静を保つこととなった。再診の指示なし。

改善内容

看取り介護を提供している方、全身状態を把握しながら、利用者個々に対し安全で適切な介護ができるように、細かに情報交換を行い、最適な介護方法で行なう

(令和2年1月9日 13時30分発生)

居室より車椅子を押しながら歩いて出てこられ、立ち止まり、ズボンを上げようと手を離されたところ、後ろに3~4歩よろめかれ、ゆっくり尻もちをつかれるように仰向けに転倒、痛みの訴えを確認するが不明瞭、左大腿部の浮腫が強く確認でき、救急外来受診し、左大腿骨人工骨頭置換術の為入院となる。

改善内容

歩行が比較的安定していた為、見守りを行っていたが、今後は歩いて出てこられた際は座って頂けるように声掛けしていく。

【苦情受付】 0件